

全国初！「市民メディカルラリー」が開催されます。

医療資格をもたない消防団員や一般市民などが競技者となって、災害時医療を学び、仮想の災害時現場において的確な対処を競い合う「市民メディカルラリー2018」が11月18日(日)に全国初で開催されます。

主催
市民メディカルラリー実行委員会、奈良市

日時 平成30年11月18日(日曜日) 12:00～17:00

場所 イオンモール高の原(京都府木津川市相楽台1-1-1)
平安コート、2階～4階のエスカレーター付近等

◆「メディカルラリー」(※1)はこれまで医療機関などを対象に行われてきましたが、専門的な資格を持たない消防団員や一般市民を競技者とするのは全国初の試みです。

◆参加は13チーム。

◆競技者は、チームで連携して模擬傷病者へのトリアージ(※2)・応急処置・こころのケアを行い、医師・消防隊に引き継ぐまでの初期初動を的確に行えたかをstation1～5で競います。

◆各競技会場は、イオンモール高の原の中央に位置する各階の吹き抜け、エレベーター付近といった多くの人々が往来する場所に設けるとともに、パネル展示や競技種目の体験コーナーを併設し、災害時の救急・救命活動の啓発も行われます。

※1 メディカルラリー…医療関係者が主に病院前救護における知識、知能を競う競技会

※2 トリアージ…患者の重症度に基づいて、治療の優先度を決定して選別を行うこと

「市民メディカルラリー」の目的

阪神淡路大震災では災害による急性期の死者、いわゆる「防ぎえる災害死」が多数発生したことから、DMATをはじめとする災害医療のシステムが構築され、東日本大震災や熊本地震では「防ぎえる災害死」は減少しました。

しかし、東日本大震災では3,500名以上、熊本地震においても200名の「災害関連死」(急性期から亜急性期の死者)が多数発生し、現在その対応が急務とされています。

災害関連死は避難所や自宅で発生することが多く、非医療従事者である一般市民の災害医療的啓発が急務であり、「医療は資格がないとできない」という一般市民の先入観を取り払い、災害医療の基本を理解、実践することで、地域における自助・共助を確立し、災害関連死を減らすことを目的として「市民メディカルラリー」をです。

引用先)

奈良市報道資料 > [ニュースリリース](#) > 全国初！「市民メディカルラリー」を開催 (平成30年10月15日発表) より

<http://www.city.nara.lg.jp/www/contents/1539583446057/index.html>